委員会行政視察報告書

平成３０年１１月３０日提出

井原市議会議長　西　田　久　志　様

報告者　市民福祉委員会

委員長　　柳　井　一　徳

委　員　　柳　原　英　子

委　員　　惣　台　己　吉

委　員　　三　宅　文　雄

委　員　　簀　戸　利　昭

期　　間	平成３０年１１月７日（水）～平成３０年１１月９日（金）
出張先及び担当職員職名・氏名	石川県小松市　議会：本谷徹課長、城丸優子主査 防災安全センター：山本肇センター長 富山県富山市　議会：福原武課長、朝倉雅彦副主幹 障害福祉課：恒川貴志係長 富山県小矢部市わくわく小矢部　職員：松岡和子理事長、今多裕子管理者
出張者氏名	委員：柳井一徳、柳原英子、惣台己吉、三宅文雄、簀戸利昭 執行部：唐木英規健康福祉部次長 議会事務局：吉原茂充
調査項目	石川県小松市　防災対策について 富山県富山市　富山型デイサービスについて 富山県小矢部市わくわく小矢部　富山型デイサービスについて（現地視察）
（概要）別紙のとおり	
（所感）別紙のとおり	

１．報告書は、視察・研修終了後１カ月以内に提出してください。
２．概要、所感については、別紙を添付してください。
３．所感には、１行目の右端に委員名を記載してください。

市民福祉委員会行政視察報告書（概要）

小松市　防災対策について（自主防災組織のステップアップ等）　　Ｎｏ.１

防災訓練ステップアップマニュアルについて

【目的】

自主防災組織の更なるレベルアップに向けて、訓練内容の充実及び訓練実施率の向上を図る

【作成】

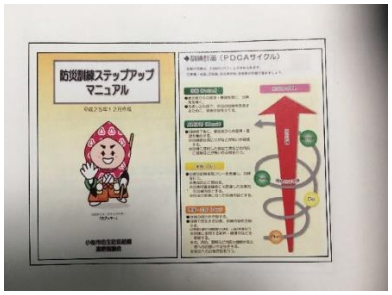
小松市自主防災組織連絡協議会

【内容等】

初動期対応・避難誘導・情報伝達など災害毎に必要な訓練内容を取りまとめ、様々な災害に応じた訓練に活用する内容

【配布先】

地域自主防災会



ＰＤＣＡサイクルで防災力向上を図っている

ランクを判定するための評価票

小松市自主防災組織連絡協議会は市内の自主防災組織（246 組織）の代表と専門知識（防災士会・消防ＯＢなど）を有する者とで構成されている。

各自主防災組織に対し評価制度が設けてあり、10 月から翌年の 9 月末日までの 1 年間を防災対応力･教育訓練等の充実度･町内防災力の貢献度など 23 項目を 160 点満点で評価する。

Ｓランク（125 点以上）　　3 町内

Ａランク（９０～125 点未満）　75 町内

Ｂランク（60～90 点未満）　　112 町内

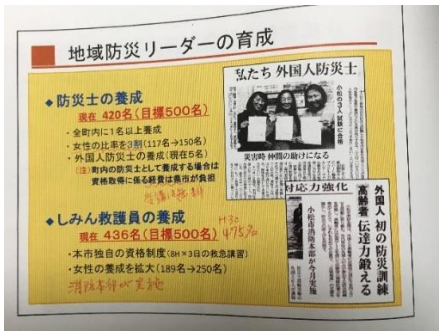
Ｃランク（３５～60 点未満）　50 町内

Ｄランク（35 点未満）　　6 町内　　※平成 29 年度実績

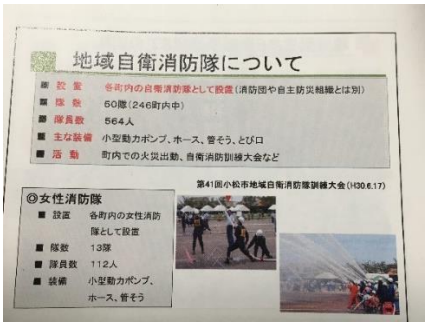
それぞれの町内を消防本部が評価している。

上記の評価状況でＳからＢまでで 77.2%を占めており、Ｂランク以上が８０％以上を目標としている。Ｓランク・Ａランクの上位団体及び優秀な個人は自主防災大会において表彰される。

『防災士』は現在 420 名（うち女性 117 名）おり、各町内に 1 名以上の防災士を養成することが目標で、全体で 500 名（うち女性 150 名）の養成を目標としている。今年度に防災士講習を 13 町内が受講予定であり、残りの 70 町内が防災士不在となっている。また、『しみん救護員』は小松市独自の資格制度で、平成 30 年度で 475 名おり、養成目標を 500 名（うち女性救護員 250 名）としている。



しみん救護員は基礎・応用・終了の講習を
各 8 時間受講することで認定証が交付される。
自主防災組織での救護リーダーとして
活動している。



小松市独自の地域自衛消防隊

自主防災組織への支援として、防災訓練実施による補助金交付制度があり、各組織へ経費の 1/2（限度額）を補助。

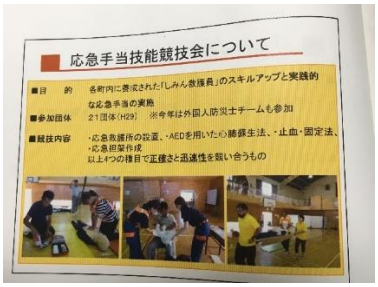
1,000 世帯未満の組織　　20,000 円
1,000 世帯以上の組織　　40,000 円

他には、防災訓練用として防災資機材貸出制度もある。（ＡＥＤ・消火器・土のう作成枠など）

このほか消防団とは別に『地域自衛消防隊』やその中に女性消防隊もあり、町内の初期消火活動に活躍していて、この地域自衛消防隊にも補助金交付制度がある。

消防用具など 6 項目に対して事業費の 1/2（限度額 3～5 万円)、小型動力ポンプＣ１級 25 万円以内、Ｂ３級に 45 万円以内の補助金が交付される。

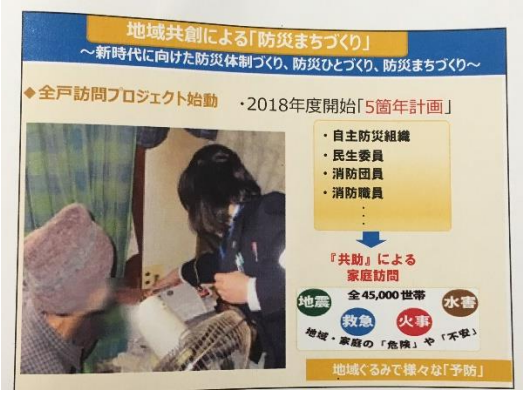
また、訓練も市主催の総合訓練の他に、学校における避難所運営訓練や防火・防災を担う人材育成として小学校の運動会に『レスキューチャレンジ』と題して、土のうづくり・土のう運び・毛布による簡易担架を利用した運搬などを競技として取り入れ、大人から子供まで防災意識を高める努力をしている。



他にも災害に強いまちづくりのために『こども防災教育』の充実を図っており、危険個所を子ども目線で見て歩いて防災マップを作成し、「ぼうさい探検隊マップコンクール」を各小学校で実施している。

また、備蓄品などの運搬・投下装置、スピーカー・高性能カメラの搭載、防滴構造などの高機能を備えた『全天候型高機能ドローン』を防災に役立てようと平成 31 年 2 月に導入予定にしている。

全戸訪問プロジェクトとして、今年度から 5 カ年で市内全 45,000 世帯を各戸巡回して、地震・火事・救急・水害に対する不安の予防や危険の防止を説明している。



富山市　　富山型デイービスについて　　Ｎｏ.１

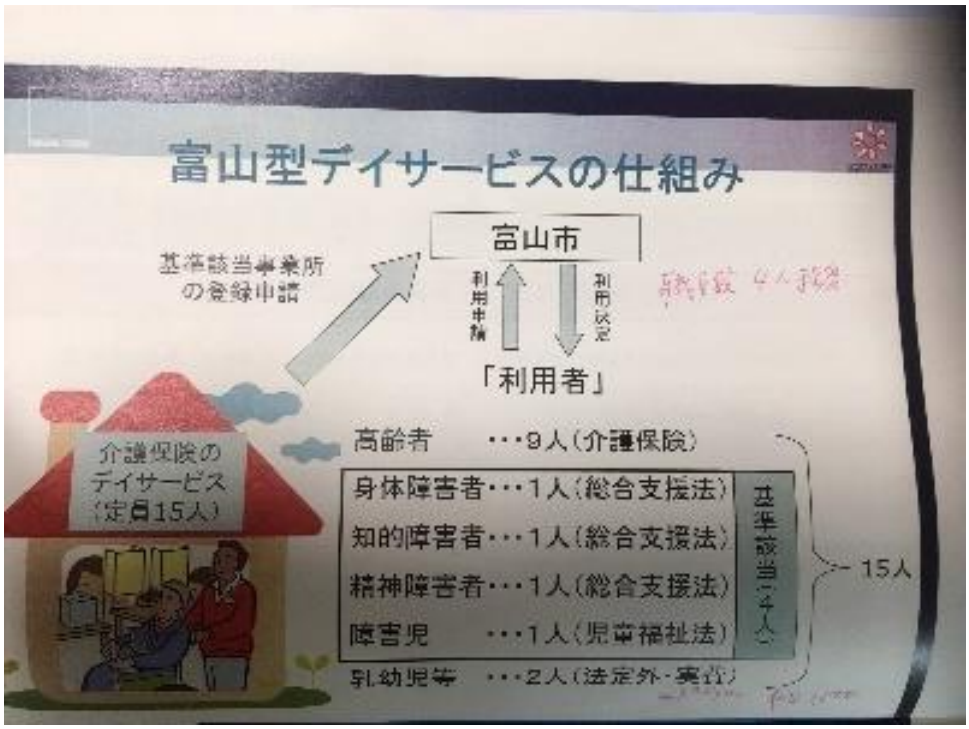
富山型デイサービスができた経過

平成 5 年に富山赤十字病院を退職した 3 人の看護師さんがデイケアハウス『このゆびとーまれ』を開所。ここの看護師で理事長の惣万さんは「子供といっしょに笑ったり、怒ったり、歌をうたったりすることはどんなリハビリよりもよい。子供がいればリハビリなんてする必要がない」との思いから施設を立ち上げた。

富山型デイサービスの特徴

小規模	一般住宅をベースとして利用定員が 15 人程度。 家庭的な雰囲気が保たれている。
多機能	高齢者・障害者（児）・乳幼児など誰でも受け入れ対応する。
地域密着	身近な住宅地の中に立地しており、地域との交流が多い。

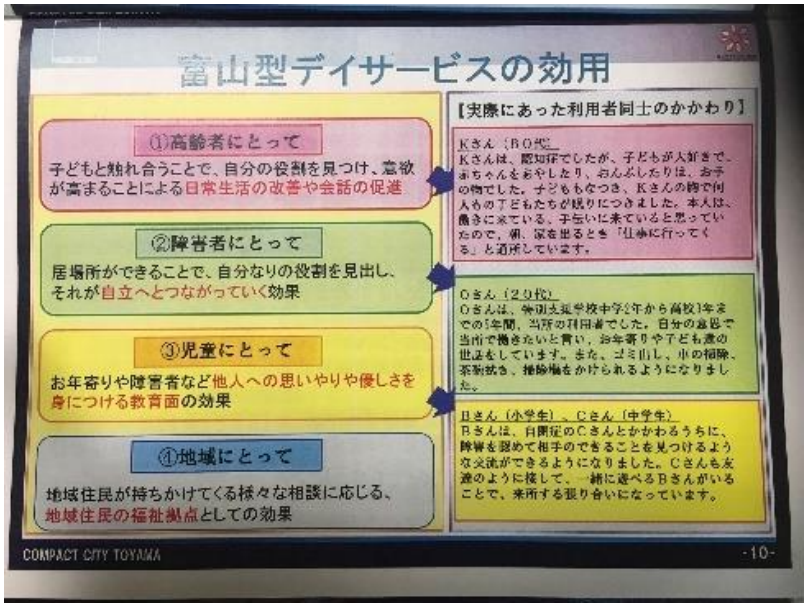
富山型デイサービスの仕組み（介護保険のデイサービスの定員が 15 名の場合の例）



乳幼児は法定外なので実費をいただいている（1 日 2 ,500 円、半日 1 ,500 円）

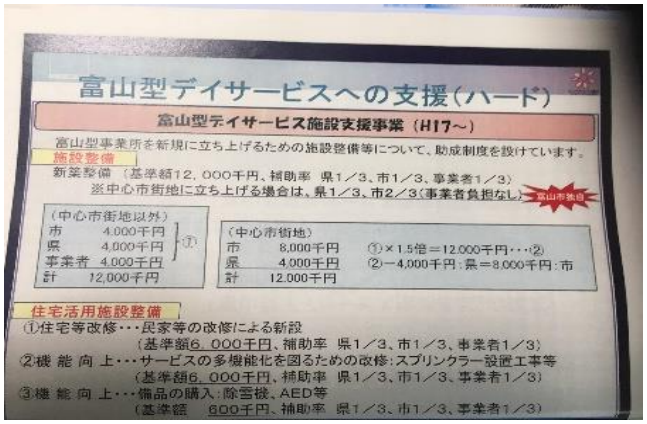
利用者については、各事業所の判断で対象者を決定することができる。

富山型デイサービスの効用について　　Ｎｏ.２



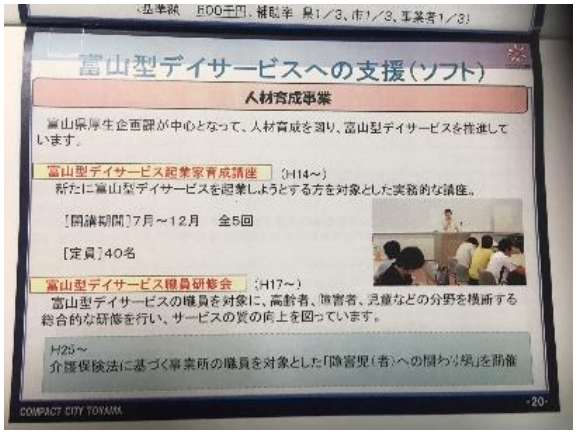
上記の 80 代の方は、子どもが好きで、赤ちゃんをあやしたりしているうち子供もなついて、本人は赤ちゃんをあやすのが仕事と思い通所しているなど、高齢者や障害者、児童にとって、それぞれが自立したり、思いやりや優しさを身につけることができている。また、地域とも良好な関係を築いており、地域住民にとっての福祉拠点として認知されているのが特徴といえる。

富山型デイサービスへの支援（ハード）



ハード面では、平成 17 年から富山型デイサービス施設支援事業が設けられ新規立ち上げの施設整備の助成をしている。新築整備は基準額１,２００万円、県 1/3、市 1/3、事業者 1/3 となっている。また、富山市はコンパクトシティを掲げていることから、中心市街地に立ち上げる場合は県 1/3、市 2/3（事業者負担なし）と富山市独自の助成を設けている。
住宅活用施設整備として、住宅等改修、機能向上のための設備工事や備品購入などに対する補助がある。

富山型デイサービスへの支援（ソフト）　　Ｎｏ.３



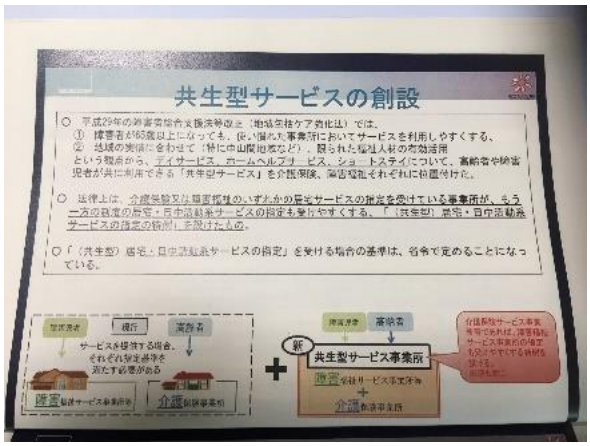
ソフト面では人材育成事業があり、富山県厚生企画課が中心となって人材育成を図り、富山型デイサービスの起業家育成講座や職員研修会などを催し、富山型デイサービスを推進している。

今後の課題

障害福祉サービス報酬の改善があげられる。

基準該当事業所の障害福祉サービス報酬は受け入れる利用者の区分によっては指定事業所より低くなるため、改善を国に要望している。塩崎厚生労働大臣が富山型デイサービス『このゆびとーまれ』を視察した際、「先駆的な取り組みの実態に触れ、大変勉強になった。うまく機能するために何が必要かよく検討する。」と課題解決に向けた考えを示している。

共生型サービスの創設



従来の障害福祉サービス事業所等と介護保険事業所のそれぞれの基準該当事業所を共生させることで、障害者や高齢者がより身近な場所でのサービスが可能となる。

富山型デイサービスは『富山型地域共生福祉』として、地域の共生拠点となるよう行政も支援し現在では全国に広がっている。

小矢部市　特別非営利活動法人『わくわく小矢部』視察　　Ｎｏ.１

富山型デイサービスのさきがけである「このゆびとーまれ」の惣万理事長の講演会を聴き、2002 年 10 月起業家育成講座受講した前理事長が仲間を募り、精神保健福祉士・保育士・社会福祉士の３人で準備を始め、約１年をかけて「わくわく小矢部」を開設。

2004 年２月　ＮＰＯ法人取得

同年４月　わくわく小矢部開設（設立時補助金なし）

	事業形態	定員
開設時	小規模通所介護 基準該当障害福祉サービス	10 名
現　在	地域密着型通所介護 基準該当障害福祉サービス	18 名

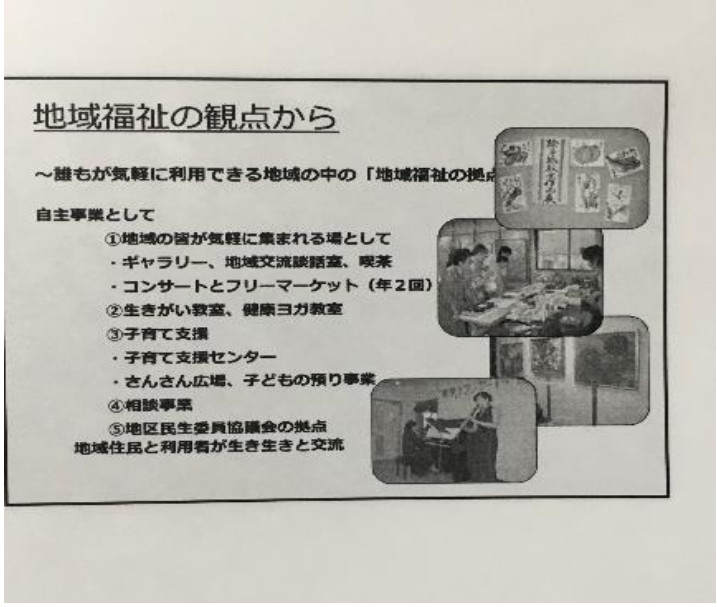
正規職員 10 人　パート職員９人　就労支援Ｂ型１人（派遣）

保有資格　　介護福祉士・精神保健福祉士・社会福祉士・保育士・看護師・理学療法士など

この施設ではスタディメイト経験者（発達障害児等を支援したことのある人）に、夏休みなど学校長期休暇のときに施設に通所する子供の支援を依頼している。

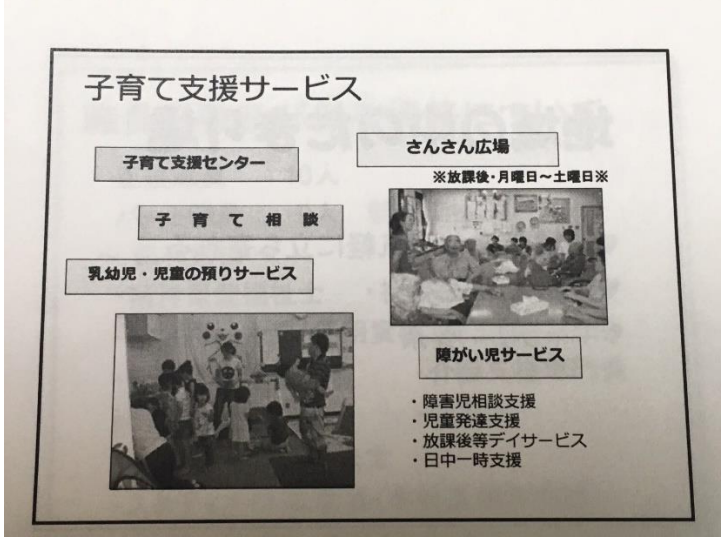
『子育て支援』・『高齢者、障がい者（児）の在宅生活支援』・『一般住民、高齢者、障がい者の生きがい活動支援』・『地域福祉活動』・『福祉に関する相談』などの活動を元病院の一階部分を改修して施設運営している。

地域福祉の観点　　Ｎｏ.２



地域密着型のこの施設は、気軽に立ち寄ることができるよう、談話スペース、ギャラリーや喫茶などがあり地域サロンとしての機能もある。年に 2 回コンサートとフリーマーケットを開いたり、健康ヨガや子育て支援、相談事業などが行われている。

子育て支援サービス



子育て支援センターとして、乳幼児や児童の預かりサービス、さんさん広場として放課後の児童預かり（月曜日～土曜日）・障がい児サービス（相談支援・児童発達支援・放課後等デイサービス・日中一時支援）などを行っている。

事業の風景　　Ｎｏ.３

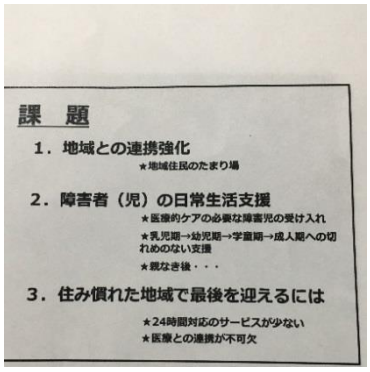
地域住民と施設通所者が気軽に、そして共に生き生きと交流しているのが富山型デイサービスの特徴である。

子どもが喜ぶ風船すくいなどのイベント

施設に職場体験に来た中学生が不登校の中学生と友達になり、その子は学校に通い始めるようになった

地域の高齢者の方々もカラオケなどを楽しんでいる。

今後の課題



課　題

1．地域との連携強化

★地域住民のたまり場

2．障害者（児）の日常生活支援

★医療的ケアの必要な障害児の受け入れ

★乳児期→幼児期→学童期→成人期への切れめのない支援

★就なき後・・・

3．住み慣れた地域で最後を迎えるには

★24時間対応のサービスが少ない

★医療との連携が不可欠

地域との連携強化や障害者（児）の日常生活支援、子育て支援や就学支援のコーディネーターとの協力、人生の終活(住み慣れた地域での最後を迎えるための医療機関との連携)など、多くの人とのかかわりがある分、多くの課題が浮き彫りになってくる。

（所　感）　　委員長　柳　井　一　徳

小松市　自主防災組織ステップアップ視察研修について

防災・減災は必須課題であり、いつやってくるかわからない災害に備えることは本年７月の豪雨災害で身に染みたところである。その経験をふまえ今回は小松市の自主防災組織の取り組みについて視察研修できたことは大変有意義であったと感じている。

本市での豪雨災害の検証を十分に行い、さらに地震も含めた防災対策についても充実したものにしなければならないと感じている。そうすることで市民の不安を軽減し、また安心・安全なまちづくりができるものと確信する。

地区別での防災訓練、避難所での情報収集や伝達、学校等避難所としての整備、備蓄品については何日分を整備するべきか、また、物資運搬へのドローンの導入など、市に対して今回の研修をもとに防災対策について提案したいと考えている。

また、小学校の運動会でのレスキューチャレンジはいいアイデアで、子供から高齢者まで地域全体で、災害に対しての意識改革を図らねばならないと痛感した。本市でも取り入れるべきと感じた。

富山市　富山型デイサービスの視察研修について

小規模で多機能な地域密着型のデイサービスが富山型デイサービスの特徴で高齢者から障害者や障害児、乳幼児までを誰でも受け入れている。多くが一般住宅を改修するなどしており、地域住民も気軽に足を運べるような家庭的な雰囲気の中、地域との融合により地域の福祉拠点も担っている点に注目した。通所している方々は職員ともみなさん友達感覚で家族のように接していて、明るさがあふれているとのこと。行政の支援としてハード面では施設整備（新築や住宅等改修など）について県と市で助成制度を設けており、ソフト面でも県がこの事業の起業家育成講座や職員研修を主催してバックアップしている。

本市にも小規模多機能デイサービスは設立されているが、本市でもこのような富山型デイサービスは必要である。今や県下のみならず全国に展開されているようだが、岡山県では富山県のように起業家育成講座などハード面、ソフト面共に支援が確立されていないために、スタートするには、国からの相当な働きかけを要するのではと感じた。

小矢部市　『わくわく小矢部』視察研修について

富山型デイサービスの施設現場視察研修に伺った。

元病院を改修して地域密着型のデイサービスを運営されており、事前に富山市で研修を受けていたので、よく理解できた。また、現場を生で視察でき、とても有意義であった。地域住民との交流では１階フロアにギャラリーとしてアマチュア写真家の写真を展示してあった。また、いこいの広場では視察に訪れていた我々も一緒にレクリエーションに参加させていただき、ピアノ伴奏のもと、幼児とその母親と高齢者が共に童謡などを明るく歌って楽しんでいた。ここの施設では病院が隣にあり、医療機関と連携ができており、通所者もその家族も安心できると感じた。富山型デイサービスには一般住宅を改修して事業所を開設しているところも多くあるとのことだったが、課題にもあったように住み慣れた地域で最後を迎えるためには医療機関との連携は必要と感じた。そのことで理学療法士、作業療法士、保健師などの指導により健康寿命延伸にもつながる。また、高齢者だけでなく乳幼児預かりや障害者(児)などの受け入れがあり、若い保護者などにとっては安心できる子育て環境もできており、地域には必要な施設であろうと考える。

本市でも国や県との連携を図りながら、相当な財源を必要とするが、取り組むことも視野に入れ、今後の課題とするべきであると感じた。

（所　感）　　委員　柳　原　英　子

小松市　防災対策について

民間出身の市長が防災に対して強い思いを持っておられる。

自主防災組織連絡協議会があり、自主防災組織の相互の連携がとれるようになっている。

自主防災への取り組みとして、自主防災組織に評価制度があること、防災士の養成目標である 500 人が今年中に達成されること、小松市独自の制度であるしみん救護員の養成も 500 人を目標にされていること、また防災に対する女性の参加率が高いことがあげられる。

大企業や自衛隊があることなど、財政上井原市とは違いがあると思う。

井原市の防災士の養成において、女性の防災士の養成は続けるべきである。

しみん救護員の育成も重要なことではないかと思う。

また、自分の町は自分で守るという、住民意識を高めることが重要である。

富山市　富山型デイサービスについて
わくわく小矢部　富山型デイサービスについて

富山型デイサービスは富山の病院を退職した看護師さんたちが始めたデイサービスで、高齢者や障害者（児）や乳幼児も一緒となった、家庭的で地域に密着した温かいデイサービス。

以前からこんなのがあったらいいなと思っていた。

ぜひ井原でも取り入れるように周知していくといいと思う。

（所　感）　　委員　惣　台　己　吉

石川県小松市（人口 10 万 8 千人）

◎防災対策について

・防災訓練ステップアップマニュアル

自主防災組織のさらなるレベルアップに向け、訓練内容の充実及び訓練実施率の向上を図ることを目的として作成。

前半は、訓練実施・計画編として、避難情報には、「避難準備情報」、「避難勧告」、「避難指示」の３種類があるといった説明から始まり、訓練内容として「地震編」、「津波編」、「風水害編」、「雪害編」と災害別に分けて説明している。

後半は資料編として、初動期対応から机上型訓練までの１０項目にわたり訓練内容を説明している。

このマニュアルは地域自主防災組織に配布し、各組織で訓練を実践してもらうよう啓発している。

行政が整備する防災だけではなく、自主防災組織など地域の防災がより機能するように作成しているが、全戸配布している井原市の防災マップ同様、市民や組織がどこまで内容を理解し、そして有事の際、実際に行動に移せるかという点に問題があり、この点を改善していく方法も研究する必要がある。

以上

富山県富山市（人口 41 万 7 千人）

◎富山型デイサービス

・富山型デイサービスの特徴

小規模 … 一般住宅をベースとして、利用定員が 15 人程度であり家庭的な雰囲気が保たれている。

多機能 … 高齢者、障害者（児）、乳幼児など利用者を限定せず誰でも受け入れ対応する。

地域密着 … 身近な住宅の中に立地しており、地域との交流が多い。

・仕組み（例）

介護保険のデイサービス（定員 15 人の場合）

高齢者…9 人（介護保険）

身体障害者…1 人（総合支援法）
知的障害者…1 人（総合支援法）
精神障害者…1 人（総合支援法）
障害者…1 人（児童福祉法）
} 基準該当 4 人

乳幼児等…2 人（法定外・実費）

というように、利用者については各事業所の判断で対象者を決定することができる。

・利用者の傾向

高齢者８～９割、障害者１～２割と、実際の利用は高齢者が多い傾向にある。

・富山市での基準該当事業所の登録要件

身体障害者 … 介護保険の通所介護の指定を受けていること。

知的障害者、精神障害者、障害児 …

・介護保険の通所介護の指定を受けていること。

・次のいずれかの要件を満たした場合には、登録を認める。

①指定生活介護事業所その他関係施設からの技術援助を受けていること

②３カ月の受入れ実績を積むこと

③常勤職員の中で、次の資格及び実務経験を有すること

（資格）介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士、理学療法士、作業療法士、看護師、保育士、ヘルパー１・２級

（実務経験）知的障害者更生施設、知的障害児施設（精神の場合は、精神障害者の施設）で実務経験１年以上

指定通所介護の配置基準を満たしていれば専門職員の配置は不要であるが、事業所としては障害者等の受け入れを行う際には対応可能な専門職員の体制を整えることを検討することになる。常勤職員のなかで、資格及び実務経験者の雇用の確保は課題となっており、労働条件と金銭面の解決が必要となっている。

以上

富山県小矢部市（現地視察）

◎デイサービスわくわく小矢部

地域密着型通所介護・生活介護・放課後等デイサービス・児童発達支援・日中一時支援

・指定一般相談支援（障害者）

・障害児相談支援（市と委託契約）

・居宅介護支援事業所

・子育て支援センター（国・県・市補助）

・さんさん広場（県・市補助）

・乳幼児一時預かり（自主事業）

・生きがい事業（高齢者）（市補助）

・ギャラリー（自主事業）

職員総数及び保有資格について

正規職員 10 人・パート職員 9 人・就労支援Ｂ型１人（派遣）

～保有資格～

・精神保健福祉士・社会福祉士・社会福祉主事（任用資格）・介護福祉士

・初任者研修修了者・介護支援専門員・相談支援専門員・保育士・看護師

・理学療法士・スタディメイト経験者（学校長期休職時）

※スタディメイト経験者とは、発達障害児を支えている人また支えたことのある人のことで、夏休み等児童の多くなるときにアルバイトにきていただく。

相談業務も多く、勤務時間内では終了しない場合が多い。障害者や児童・乳幼児の利用を増やすと高齢者のみの利用よりも収入が減少するため経営の面で不安定な部分もあり、労働条件や金銭等の面において職員の確保というのが大きな課題である。

以上

（所　感）　　委員　三　宅　文　雄

○１１／７（水）石川県小松市

★「防災対策について」（自主防災組織ランクアッププラン等）

小松市では、自主防災組織向けに防災訓練ステップマニュアルを平成２５年１２月に作成し配布している。井原市では、自主防災組織の立ち上げ、防災資機材の購入費助成制度、防災士の育成等に取り組んでいるが、それからあとのフォローがあまりできていないように思う。小松市では、自主防災組織の評価制度を設け、活動に対してランク付けをしたり、自主防災大会を開催して、優秀な団体を表彰するなどランクアップに向けた取り組みを行っている。防災訓練を実施する団体に対し、市が所有する防災資機材を貸し出すなど訓練の充実を図っている。また、避難所の運営については、各地区で設立している避難所運営協議会が行うことになっており、特に機能強化避難所においては、発電機、非常用トイレ、非常用食料品、保存水、救急セットなども準備している。その他の取り組みとしては、小松市独自の制度として、自主防災組織の中から新たな救急リーダーを育成する「しみん救護員」制度について説明を受けた。私は１０月議会において停電時の住民への情報伝達方法について尋ねたところ、広報車による方法を考えていると答弁があったが、道路が通行止めになった時のことも考えると、以前芳井町で採用していた、防災行政無線と屋外スピーカーも必要ではないかと感じた。また、小松市では、全天候型高機能ドローンを今年度配備予定とのことである。災害はいつ発生するか分からない。十分な備えをしておくことに超したことはない。７月豪雨による被災で、多くの市民の皆様も防災への意識が共有できたのではないかと思う。小松市で行われている自主防災の取り組みは、実にすばらしいものであった。本市の今後の防災対策の取り組み方について参考になることが数多くあった。

○１１／８（木）富山県富山市

★「富山型デイサービス」について

「富山型デイサービス」の特徴は、小規模・多機能・地域密着型である。一般住宅をベースとして、高齢者、障害者等に限定せず、誰でも受け入れていて、地域との交流も多いとの説明があった。平成５年に、当時、富山赤十字病院に勤めていた看護師さん３人が協力して、行政からの支援がない中、自費で「このゆびとーまれ」というデイケアハウスを開所したのが始まりである。その後、平成８年には富山市、平成９年には富山県がそれぞれ支援に乗り出し、補助制度を設けるなど行政との連携がスタートした。そして、平成１５年１１月には「富山型デイサービス推進特区」が国の構造改革特区に認定された。この特区は平成１８年１０月に地域限定の特区から全国展開され、平成２７年度では全国で１４９８個所の事業所で富山型デイサービスが行われている。富山市内には、現在６５

小学校区があるが、そのうち４６事業所がこれに該当するといわれていた。井原市にもデイサービスを行っている事業所は数多くあるが、富山型のような事業所はない。地域共生型福祉の先進地である富山の取り組みが全国に普及していけばよいことだと思う。

○１１／９（金）富山県小矢部市

★「富山型デイサービス」について（現地視察）

富山型デイサービスの現状を知るため、小矢部市にある「わくわく小矢部」を訪問し、事業に実際に携わっている方から説明をお聞きした。「わくわく小矢部」は高齢者、障害者や子供達まで受け入れを行っている「富山型デイサービス」事業所で、地域の人たちが気軽に立ち寄れる、いわゆる地域の中のたまり場でもある。理事長は病院経営者でもあり、３階建の建物の１階部分を「わくわく小矢部」の事業所として運営している。行政、医療、介護の連携がこれからの超高齢化社会には非常に重要になってくる。地域交流談話室では、ヨガを教えている先生のピアノ演奏で高齢者、障害者、そして子供たちと視察に伺った我々が一緒に、童謡を口ずさんだ。楽しい時間を共有することができた。小矢部市の人口は約３万人と井原市よりやや小さめの市で、小矢部市内の「富山型デイサービス」はまだわくわく小矢部の１事業所しかないそうで、これからの時代、このような施設が増えていってほしいと理事長は言っておられた。昨日、富山市役所で「富山型デイサービス」について説明をお聞きしたが、現地に行ってみて、実際に「わくわく小矢部」の事業所を見せていただき、運営の現状を聞かせていただいたのが非常によかった。我々団塊の世代もまもなく後期高齢者の仲間入りである。高齢者になって、自分が事業所にお世話になった場合に、孫達と同じくらいの子供たちが気軽に来てくれたら何とうれしいことか。まだまだ長生きできると思う。子供たちからエネルギーをいっぱいもらえるような気がする。井原市にもこのようなすばらしい事業所が一つでも二つでもできたらいいなと思った。

（所　感）　　委員　簀　戸　利　昭

石川県小松市　防災対策について

小松市は豪雪地帯であり、平成３０年の豪雪で最深積雪１０７㎝を記録。
平成２５年７月豪雨により地元の梯川が氾濫寸前となり、
　２１町内　　１３，１１０人　避難指示
　　５町内　　４、２８１人　　避難勧告　を発令。
近年大きな災害があり、防災対策に取り組まれている。
防災訓練ステップアップマニュアルを作成。
「目　的」防災訓練ステップアップマニュアルを作成し、自主防災組織の更なるレベルアップに向けて、訓練内容の充実及び訓練実施率の向上を図る
「作　成」小松市自主防災組織連絡協議会
「内容等」初動期対応・避難誘導・情報伝達など災害毎に必要な訓練内容を取りまとめ、様々な災害に応じた訓練に活用する内容
「配布先」地域自主防災会
また、自主防災組織評価制度を設け、防災組織のレベルアップを目指している。

井原市においては、今までは災害の少ない町として、他人事のような風潮があったが、本年の７月豪雨災害が実際におきて、対策や対応の重要性を感じた。それぞれの地域の防災対策や防災対応を考えるきっかけになった。本市においても、災害時の人員配置、情報の収集や地域との情報伝達について、また対応の難しさを感じており、このたびの経験や反省を踏まえ、見直しをすることも検討しながら、より充実した防災対策ができればと感じた。

富山県富山市　富山型デイサービスについて

富山型デイサービスができた経緯
富山型デイサービスは、平成５年に富山赤十字病院を退職した３人の看護師さんが開所したデイケアハウス「このゆびとーまれ」において、赤ちゃんからお年寄りまで、障害のあるなしにかかわらず受け入れたことから始まり、後に「富山型」と言われるようになった。

富山型デイサービスの特徴

富山型デイサービスのキーワードは小規模・多機能・地域密着

「小 規 模」一般住宅をベースとして、利用定員が１５人程度であり、家庭的な雰囲気が保たれている。

「多 機 能」高齢者、障害者（児）、乳幼児など利用者を限定せず、誰でも受け入れ対応する。

「地域密着」身近な住宅の中に立地しており、地域の交流が多い。

介護保険制度ができる前からこの事業は行われていた。

富山市における富山型デイサービスの事業所数については、地域に偏りはあるものの小学校区に１施設を目指している。

これからは、高齢化時代を迎え、施設の在り方を考える時代になってきている。
本市でも、介護保険施設、障害者施設も含め「富山型地域共生福祉」について考えることも必要であると思う。

富山県小矢部市　富山型デイサービス「わくわく小矢部」現地視察

この施設は、病院の旧館を利用した施設であった。

高齢者だけでなく子育ても応援する富山型デイサービス施設として、赤ちゃんからお年寄りまで障害の有無にかかわらず誰もが利用できる「家」として運営されている。

この施設の運営は、一線を退かれた方にも職員として協力を得ており、若い職員と共に働かれていた。これも、「富山型共生福祉」の産物だと思われる。それぞれの立場を理解された共生社会だと思う。

わくわく小矢部を見学し、富山型デイサービスは運営者の考え方がしっかり反映されていることが大きいと感じた。

また、国の介護保険の介護報酬の在り方や、障害福祉サービス報酬の改善についても議論することが必要と思える。